

# EU Indicators

発表日: 2019年5月7日(火)

## 欧州経済指標コメント: 1-3 月期ユーロ圏GDP

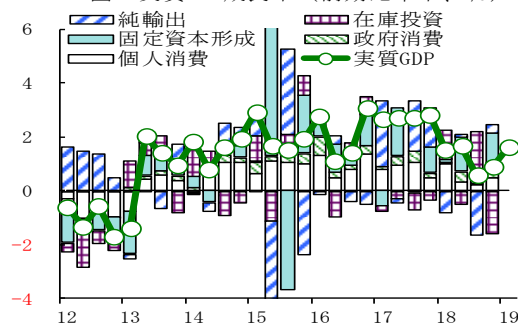
～成長加速と新たな不安材料～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (Tel: 03-5221-4527)

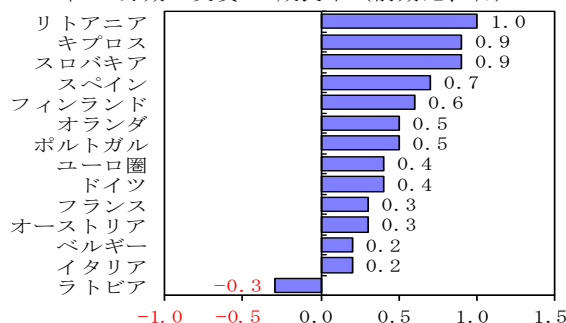
- 1-3月期のユーロ圏の実質GDP成長率は、一次速報段階の前期比+0.4%から不変（同年率値では+1.5%→+1.6%）。新たに発表された国別計数によれば、ドイツ（前期：同ゼロ%→今期：同+0.4%）とイタリア（同▲0.1%→同+0.2%）が過去2四半期の停滞からプラス成長に復帰、スペイン（同+0.6%→同+0.7%）やポルトガル（同+0.4%→同+0.5%）の成長が加速、ベルギー（同+0.4%→同+0.2%）やフィンランド（同+0.8%→同+0.6%）が減速、フランス（同+0.3%→同+0.3%）やオランダ（同+0.5%→同+0.5%）が前期と同じ成長率を記録した。
- 同日発表されたドイツの需要項目別の内訳は23日に公表されるが、政府統計局の発表によれば、外需が低迷するなか、内需が成長復帰を牽引した。政府消費が前期から落ち込んだものの、建設投資、企業設備投資、個人消費が大幅に拡大。輸出と輸入はともに増加した。建設投資の拡大は温暖な天候に支えられた一過性のもの。設備投資の増加にはやや意外感もあるが、昨年後半の生産を抑制した要因（自動車の新排ガス試験対応、干ばつによるライン川の水位低下など）の剥落が影響した可能性がある。個人消費の拡大は良好な雇用・所得環境に支えられたもの。
- ユーロ圏全体でも海外部門の低迷を内需部門が下支える構図。今後は米中貿易戦争の長期化の余波が欧州にも及ぶとみられるほか、米欧通商協議やブレグジットの先行き不透明感が業況改善の足枷となりそうだ。製造業の停滞長期化で内需の下支えがどこまで持つかが鍵を握る。

■ユーロ圏：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：Eurostat

■2019年1-3月期の実質GDP成長率（前期比、%）



出所：Eurostat

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目 GDP	実質 GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本 投資	在庫	輸出	輸入		
17/4-6月期	4.7	2.7	(2.9)	1.8	1.5	8.9	(▲0.3)	▲0.2	4.2	5.0
17/7-9月期	4.0	2.7	(0.8)	2.0	1.8	▲0.3	(▲0.6)	1.9	5.3	1.4
17/10-12月期	3.9	2.8	(1.4)	0.9	1.0	4.7	(▲0.3)	1.5	8.8	6.1
18/1-3月期	3.0	1.5	(2.3)	1.9	0.2	0.6	(1.1)	▲0.8	▲2.4	▲0.9
18/4-6月期	3.3	1.7	(1.6)	0.7	1.7	6.4	(▲0.5)	0.1	4.5	4.7
18/7-9月期	2.0	0.6	(2.2)	0.4	0.2	2.0	(1.5)	▲1.6	0.8	4.7
18/10-12月期	2.5	0.9	(0.6)	1.0	2.7	5.3	(▲1.6)	0.3	4.7	4.4
19/1-3月期	—	1.6	—	—	—	—	—	—	—	—

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

